

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神、教育理念、使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置(名称、メンバー、年間開催回数)					
b ●当該付属機関・委員会の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	教育・研究に必要な学術資料を収集・体系化・保存し、大学の「『知』の拠点」として、これを本学の教職員、学生に提供することを目的とする。この目的を十全に果たすため、各々の学問分野にわたり必要とされる学術資料を過不足なく収集し、それらについて十分な検索手段を確保し、さらに学術情報をよりスムーズに提供するための人的資源の確保、養成に努める。またこのような図書館機能の有効な活用を促すために、学生に対して図書館リテラシー教育活動を積極的に実施する(資料1-33-1:346~351頁)。 米沢嘉博記念図書館、現代マンガ図書館の二館で構成するマンガ図書館は、世界的に注目されるマンガやアニメの分野を中心に、日本の先端文化に関する資料を収集、保存、公開する。また一般公衆に図書館を有料で公開することにより、地域・社会への貢献を果たす(資料1-33-2)。	・図書館の理念・目的は、本学の教育研究活動を十全に支援しうるものである。 ・マンガ図書館は、サブカルチャー文化の資料を収集、保存、公開するという当初の目的を十分実現している。また、大学におけるマンガ専門の図書館としては、京都精華大学の「京都国際マンガミュージアム」以外では、ほとんど類例のない機関であり、その存在は新聞、雑誌の記事に取り上げられ、広く社会的な注目を集めている(資料1-33-1:385~388頁)。		・本学のマンガ図書館である「米沢嘉博記念図書館」「明治大学現代マンガ図書館」の活動について、社会へ向けて広報を活発に行なう。また関係他機関との教育・研究の連携を進める。		資料1-33-1 2014年度教育・研究に関する年度計画書 資料1-33-2 明治大学マンガ図書館規程
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	教職員に対しては、図書委員会を通じて図書館の諸活動を周知している(資料1-33-3)。また学生に対しては、学部間共通総合講座「図書館活用法」、図書館ガイダンスをはじめ各種講習会等の図書館リテラシー教育活動を通じて図書館の諸活動や活用方法を周知している。さらに、学内外、社会に対しては、「図書館年次報告書」(年刊)を図書館ホームページに掲載して図書館活動の内容を公表している(資料1-33-4、資料1-33-5)。 マンガ図書館については、マンガ図書館運営委員会を開催し、審議・報告等を行なっている(資料1-33-6)。また、米沢嘉博記念図書館ホームページを通じてマンガ図書館の諸活動を周知している(資料1-33-7)。	・毎年「図書館年次報告書」を刊行し、また図書館ホームページ上に公開することで周知している(資料1-33-5)。		・検証結果については、図書館HPなどを通じて適宜公表していく。		資料1-33-3 図書委員の役割について 資料1-33-4 2013年度図書館年次報告書(2014年9月刊行予定) 資料1-33-5 明治大学図書館ホームページ「図書館年次報告書」 http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/annual/index.html 資料1-33-6 マンガ図書館運営委員会議事録 2013年度第1~2回 資料1-33-7 米沢嘉博記念図書館ホームページ「展示・イベント」 http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/index.html
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	前年度の図書館の活動報告として「図書館年次報告書」(年刊)を刊行、公表し、図書館活動の検証を行っている(資料1-33-4)。また、図書委員会の下に図書館自己点検・評価委員会を置き、報告書をまとめている。課題となる要項については適宜図書委員会で審議している。図書委員会での審議・報告事項は、図書委員を通じて、各学部教授会に伝達する体制となっている(資料1-33-3)。 マンガ図書館については、前年度活動報告書を作成し、1年間の活動を総括している(資料1-33-8)。	・毎年「図書館年次報告書」を刊行し、また図書館ホームページ上に公開することで周知している(資料1-33-5)。		・検証結果については、図書館HPなどを通じて適宜公表していく。		資料1-33-3 図書委員の役割について 資料1-33-4 2013年度図書館年次報告書(2014年9月刊行予定) 資料1-33-8 米沢嘉博記念図書館活動報告書2013年度

2013年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(I-2) 理念・目的に基づいた特色ある取り組み							
	<p>③個性化への対応 図書館が行ってきた図書館リテラシー教育活動について、2007年度に文部科学省の特色GPに「『教育の場』としての図書館の積極的活用」が採択され(資料1-33-9)、事業は2009年度に終了した。以降はこれを継承し、学習・教育支援のために図書館職員の資質向上を目指す様々な取組みを行う事業を展開している(資料1-33-10)。具体的には、学部間共通総合講座「図書館活用法」に図書館職員を講師として派遣するとともに、図書館ガイダンスや各種情報ツールの利用講習会の実施などにより、図書館リテラシー教育の充実を図った(資料1-33-4)。「図書館活用法」の授業は、動画コンテンツ化、図書館ホームページでの公開も実施している(資料1-33-11、資料1-33-12)。さらに、レポート作成における資料利用方法の指導のための図書館職員の教育スキル向上のための研修を実施した(資料1-33-4)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館リテラシー教育を積極的に推進することによって、従来のような利用者の来館を待つ受身の姿勢を脱し、大学の教育研究活動の一端を担う図書館活動を展開することが可能になった。また近年、図書館リテラシー教育活動に大きな力を注いだ結果、各種講習会をはじめ、図書館の様々なイベントに参加する学生も増加し、図書館と学生を結びつける良い機会となっている(資料1-33-4)。 ・学部間共通総合講座「図書館活用法」のプログラム評価を継続し、引き続き改善を行なう。毎回の授業で小テストを行うことにより、学生の理解度を確認できるようになった。 ・2008年度から外部の専門家を講師に招き、教授法、プレゼンテーション技法等について、スタッフデベロップメント研修(SD研修)を企画・実施してきた。2013年度は、青山学院大学教育人間科学部准教授野末俊比古氏を招き、「今、求められる大学教育のあり方と大学図書館の役割」というテーマで、研修に取り組んだ(資料1-33-4)。 ・和泉図書館において、レポートの章立て、参考文献の付け方などを中心としたレポートの書き方指導を開始した。これには、副館長、図書館専任職員、大学院生があたり、とりわけ図書館職員の能力開発に成果を上げている(資料1-33-4)。 ・毎年書評コンテスト、ビブリオバトル、ブックハンティングなどを実施し、学生の読書推進に効果を上げている(資料1-33-4)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館リテラシー教育活動は、従来の図書館業務スキルでは対応できない部分が発生している。特にレポート作成における資料利用方法等の指導については、学生に指導する図書館職員の研修を開始したが、レポートの作成指導をどこまで行なうかなど、不明確な部分が存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間共通総合講座「図書館活用法」のプログラム評価を継続して行なう。 ・図書館職員全員がリテラシー教育を担当できるようにするため、SD研修を継続して行なうとともに、必要に応じて、外部機関が開催する大学図書館員向けのプレゼンテーション、レポートの書き方指導などの研修を受講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のクラス単位の図書館ガイダンスは、教員の要望に応じてプログラムをカスタマイズする柔軟性を持つよう体制を整える。 ・レポート作成における資料利用方法等の指導については、図書館職員の教育スキル向上を目標に研修等に取り組む。また、各キャンパスの学習支援室と連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間共通総合講座「図書館活用法」のプログラム評価活動について、全ての図書館職員が取り組めるようにする。 	<p>資料1-33-4 2013年度図書館年次報告書(2014年9月刊行予定) 資料1-33-9 図書館ホームページ「特色GP」「『教育』の場としての図書館の積極的活用—図書館の持つ教育力を教育に活かす—」 http://www.lib.meiji.ac.jp/about/gp/Meiji_GP_Panph2007.pdf 資料1-33-10 2013年度学部間共通総合講座「図書館活用法」SD研修会 資料1-33-11 図書館ホームページ「図書館活用法デジタルコンテンツ」 http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/stream/C06850011.html 資料1-33-12 図書館ホームページ「図書館活用法」 http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/index.html</p>

第2章 教育研究組織

点検・評価項目	現状の説明	評価	発展計画		根拠資料		
			「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 H列にあれば記述			
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	Alt + Enterで箇条書きに	
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	○図書館【参照：基準7】 明治大学図書館（中央、和泉、生田、中野図書館）は、教育・研究支援の中核機関であり、教育研究及び学習に必要な学術資料を収集・整理・保存及び提供することにより、本大学における教育研究の進展に資するとともに、広く学術の発展に寄与することを目的としている。特に、2012年度に建て替えによって開館した和泉図書館においては、近年必要性が高まっているラーニング・コモンズの機能の提供をめざし、学生の自主的な学習活動を促すコミュニケーションの場を実現した。中央図書館は2000年度末に開館して以来延べ入館者数が1,100万人を迎えた。和泉図書館においては、2012年5月に開館し1年と1カ月で延べ入館者数100万人を超え、2014年6月末には延べ入館者数200万人を迎えると思われる。さらに和泉図書館の学外からの見学者は、開館以来2年間で、約9,000人を超えており、全国から注目を集めている（資料2-33-1）。 ○その他の附属機関等 (8) 明治大学マンガ図書館 日本のマンガ、アニメ等の資料を収集し、これを公開することを目的として設置し、「米沢嘉博記念図書館」及び「現代マンガ図書館」の2館から構成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・4キャンパスにそれぞれの教育・研究目的、特性に対応した図書館を設置して、学生・教職員に合わせたサービスの提供を可能にする組織体制が整えられている（資料2-33-1）。 ・各種の図書館刊行物や講演会・ギャラリー展示を通じて、特色ある諸活動やその成果を社会に向けて発信できた。またそれらの反響が、さらなる図書館活動を推進する原動力の一つとなっている（資料2-33-1）。 ・貴重資料展示の各キャンパス図書館巡回展示を実施し、図書館の蔵書を広く公開した。 ・2014年1月から開催された米沢嘉博記念図書館の企画展示「次元の壁をこえて 初音ミク実体化への情熱展」には、多くの来場者が訪れた。また博物館特別展「SFと未来像展」は米沢嘉博記念図書館と日本SF作家クラブと共催で開催され好評を博した（資料2-33-2：88-89頁）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に社会に向けて、図書館の特色ある蔵書や活動を広く公表すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の特色ある諸活動やその成果を社会に向けて発信する方法を、現行の出版物、図書館ホームページ以外で可能なものを検討し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4館の広報活動をさらに推進する。中野図書館にはギャラリー施設がないが、特設コーナー用書架を用いた展示や、デジタルサイネージを用いて、広報活動を推進する。また、博物館との協力展示を計画し、図書館の広報活動を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の特色ある蔵書や活動とその成果を講演会や刊行物、図書館ホームページなどを通して、随時社会に発信する。 ・マンガ図書館は、米沢嘉博記念図書館、現代マンガ図書館を包含する「明治大学東京国際マンガミュージアム」（仮称）の設立に向けて、計画を推進する。 	資料2-33-1 2013年度図書館年次報告書（2014年9月刊行予定） 資料2-33-2 ミュージアム・アイズ vol.62, 2014年
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか							
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の図書館の活動報告として「図書館年次報告書」（年刊）を刊行、公表し、図書館活動の検証を行っている（資料2-33-1）。また、図書委員会の下に図書館自己点検・評価委員会を置き、報告書をまとめている。課題となる要項については適宜図書委員会で審議している。 ・マンガ図書館は、「明治大学東京国際マンガミュージアム」（仮称）の設置に向けて検討を行った。これまで、2010年3月に「東京国際マンガ図書館（仮称）設置大綱」を、2012年1月に基本構想として「明治大学国際マンガ図書館（仮称）設置準備委員会報告書」としてまとめ、これを理事長へ提出した（資料2-33-3）（資料2-33-4）。これについて設置場所を中野キャンパスとした検討案を2012年2月に「明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書」としてまとめ、2013年4月に学長へ提出した（資料2-33-5）。扱う資料の性格上、これまでの「図書館」とは性質を異にすることから、2013年10月の理事会にて「明治大学東京国際マンガミュージアム」（仮称）と名称変更することになった（資料2-33-6）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館自己点検・評価委員会」は、図書館の運営に携わる教員、図書館職員により委員会が構成されているため、それぞれの立場からの全般的な評価が可能である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館自己点検・評価委員会」は、図書館の運営に携わる教員、図書館職員により委員会が構成されている。今後も組織的に継続して評価活動を行なうとともに、幅広い視点で評価活動を行なう必要があるため、あらかじめスケジュールを明確にし、適宜委員構成等を見直す。 		資料2-33-1 2013年度図書館年次報告書（2014年9月刊行予定） 資料2-33-3 「東京国際マンガ図書館」（仮称）設置大綱（2010年3月11日） 資料2-33-4 明治大学国際マンガ図書館（仮称）設置準備委員会報告書（2012年1月30日） 資料2-33-5 明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書（2013年2月28日） 資料2-33-6 起案書「明治大学国際マンガ図書館（仮称）の名称変更について」（2013年10月15日常勤理事会可決）	

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき各課程に相応しい教育を提供しているか							
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）							
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	・各キャンパスの図書館において、図書館リテラシー教育として「図書館ガイダンス」を実施している。これは授業の1回を使い、図書館の利用方法、文献の探し方、資料の入手方法を実習形式で修得するものである。図書館ガイダンスは教員のリクエストによりプログラム内容を変え、ガイダンスを実施している。文章の書き方に関する授業以外にも、法学部の科目である「法律リテラシー」の授業用の図書館ガイダンスプログラムも用意している。このプログラムでは、法学に特化した内容であり、図書館職員が判例・法律条文等の検索などを学生に指導している。また図書館職員は、学部間総合講座「図書館活用法」のパソコンを使用する演習授業を中心に授業を担当している。この他「レポートの書き方講座」や「各種データベースの利用講座」も図書館を主体に随時開催している。	・大学教育全てに共通する文献の探し方を教育することにより、学習支援の一端を図書館が担っている。 ・ゼミガイダンス実施回数は教員からの要望が強く、中央図書館は約60回、和泉図書館は約180回、生田図書館は約20回、中野図書館は約20回実施した（資料4（2）-33-1~4）。 ・「図書館活用法」は、2013年に新しくできた中野キャンパスを含め（資料4（2）-33-5:102~103頁）、全キャンパスで開講している。全キャンパスの学生に図書館活用法を履修可能とし、初年次教育を支援している。	・教員からのリクエストによる図書館ガイダンスプログラムのカスタマイズ化にえられるのは、ベテラン職員が中心である。	・全キャンパスの図書館職員が、学部間総合講座「図書館活用法」の講師として、授業を行えるようにする。	・各図書館職員が、教員からのカスタマイズの要望に応えられるように、職場研修等を実施する。	・全キャンパスの図書館職員が図書館ガイダンスを担当し、実施できるようにする。	資料4（2）-33-1 2013年度中央図書館ガイダンス、ゼミツアー、講習会等報告 資料4（2）-33-2 2013年度和泉図書館ガイダンス・講習会等の実施について（報告） 資料4（2）-33-3 2013年度生田図書館ガイダンス・講習会等の実施について（報告） 資料4（2）-33-4 2013年度中野図書館ガイダンス等の実施について（報告） 資料4（2）-33-5 「学部間共通総合講座シラバス」2013年度「図書館活用法中野キャンパス」

第4章 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1) 教育方法及び学習方法は適切か							
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）							
e ●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】	<ラーニング・コモンズの機能を発揮する図書館の学習支援> 文系1・2年次が学ぶ和泉キャンパスに、2012年5月に新しく開館した和泉図書館では、情報リテラシー室(3室)やプレゼンテーションの練習やグループワークが可能なコミュニケーションラウンジ、グループ閲覧室(6室)、館内で自由に利用できる貸出パソコンやプロジェクター等の設備を有し、図書館職員や大学院学生による学生の主体的な学びを支援する体制を整えたラーニング・コモンズ機能を有している(資料4(3)-33-1)。 授業の一環として実施される図書館ガイダンス、学部間共通総合講座の「図書館活用法」等の授業科目と連動した各種ガイダンスの実施などの取組みに加え、大学院学生による「レポートの書き方ナビ・ステーション」カウンター(2Fサブカウンター)やレポートの書き方講座等の学習支援を行っている。情報リテラシー室で行われる図書館ガイダンスも2013年度では約180回を実施している(資料4(3)-33-2)。さらにブックハンティング、ビブリオバトル等の諸行事による学習支援を多様に展開することで、開館から1年1ヵ月で入館者は100万名を超え、2014年6月末には延べ入館者数200万人を超えた。旧和泉図書館との比較において利用者数は大幅に増加している【参照：基準7】。	④ラーニング・コモンズ機能を発揮する図書館の学習支援 ・図書館が教員と職員の協働により「学びの場」として機能している。特に、文系1・2年次の和泉キャンパスに2012年5月に開館した和泉図書館では、情報リテラシー室、コミュニケーションラウンジ、グループ閲覧室などのグループワークが可能な施設のほかにカフェやソファブース等を設け、学生の多様な主体的な学びを支援している(資料4(3)-33-1)。 ・主な学習支援として、授業の一環として実施される図書館ガイダンス、学部間共通総合講座の「図書館活用法」等の授業科目と連動した取組みに加え、大学院学生による「レポートの書き方ナビ・ステーション」窓口やレポートの書き方講座等の学習支援、ブックハンティング、ビブリオバトル等の諸行事による図書館リテラシーの向上など多様に展開され、和泉図書館は初年次教育の拠点として大きな効果を上げている(資料4(3)-33-2)。		④ラーニング・コモンズ機能を発揮する図書館の学習支援 ・学部間共通総合講座「図書館活用法」のプログラム評価活動の継続とカリキュラムの改善、少人数授業における図書館ガイダンス、各種情報源利用講習会等を今後も開催する。 ・図書館職員には、専門的知識のほかに、図書館リテラシー教育等を実施できるスキルが求められている。そして学習支援のより一層の充実のために、図書館職員の専門職としてのリテラシー教育のスキルアップを行う。			資料4(3)-33-1 明治大学和泉図書館パンフレット 資料4(3)-33-2 2013年度和泉図書館ガイダンス・講習会等の実施について(報告)

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか							
a	<p>●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】</p>	<p><初年次教育における学習成果指標の開発と検証> 学部間共通総合講座「図書館活用法」では、授業の学習達成目標を予め設定し、「図書館活用法タスクフォース」が毎学期「総合テスト」及び「アンケート」を分析し、目標の達成度を検証している。最終授業時のアンケートでは、「図書館の資料、情報の探し方が分かるようになった」、「効率よく探せるようになった」という情報・文献検索に関する感想と、「レポート・論文の書き方の基本を知ることができた」というレポート・論文作成に関する感想が毎回数多く挙げられ、本授業が学生の情報リテラシー、学術リテラシー能力の向上に効果を上げていることが示されている(資料4(4)-33-1~3)。</p> <p>2012年度末から始めた図書館活用法の『授業履修者の4年次における追跡アンケート調査』を2013年度末にも実施した。その結果、回答者の9割が、「授業・勉強などの学術の場で授業内容が役立った」と答えた。具体的には、「レポート、論文執筆時に、必要とする情報を見つけることができた」「参考にする文献の数が増えた」などの回答があり、本授業を履修することにより身についた情報リテラシースキルが、3・4年次になった段階においても役立っていることが示され、長期的に効果を上げていることが判明した(資料4(4)-33-4)。また、前出の『追跡アンケート』において「1年次での履修が効果的」との結果が出ているため、1・2年生の履修者を増加させることを目的に、和泉キャンパス(文系1・2年生のキャンパス)における開講時限を2014年度も引き続き前期・後期とも2時限ずつ開講する。</p> <p>2013年度にはレポート作成に関わる学習達成目標の達成度を評価する「ループリック」を活用することとし、カリフォルニア大学バークレー校教育学習センターと遠隔講義によるワークショップ(2013年7月30日開催)を行った。図書館活用法の授業に係わる9名の教職員がループリックの作成方法を学び、評価指標の開発をより一層進めている(資料4(4)-33-5)。学習成果指標の開発によって学生の学習達成度を検証し、その結果から教育課程や教育方法の改善につなげている(「図書館活用法」の教育課程・教育内容の詳細については、「基準4(2)教育課程・教育内容」を参照)。</p>	<p>・学部間共通総合講座「図書館活用法」では、授業の「学習達成目標」を予め設定し、テストや履修者アンケートの分析を通じて目標の達成度を検証し、学習達成目標の変更も行っている(資料4(4)-33-1~3)。さらに1年次履修者の4年次における学習効果をアンケートで追跡測定しており、回答者の9割が「授業・勉強などの学術の場で授業内容が役立った」と回答している。こうした検証結果をもとに授業改善に結びつけている(資料4(4)-33-4)。</p> <p>学習達成目標の達成度を評価するうえで「ループリック」を活用するため、カリフォルニア大学バークレー校教育学習センターと共同ワークショップを行い、新たな学習成果指標を開発する等、学習成果の設定が、学習成果の向上と持続的な教育改善に効果を上げている(資料4(4)-33-5)。</p>		<p>・学部間共通総合講座「図書館活用法」の授業評価の一環で、1年次履修者の4年次における学習効果をアンケートで追跡測定している。こうしたアンケートを今後も継続して実施し、分析を行い、授業の改善を行なう。</p>		<p>資料4(4)-33-1 図書館活用法TF会議&評価T会議議題「授業改善の検討」(2010年9月22日) 資料4(4)-33-2 図書館活用法TF会議&評価T会議議事録(2010年9月22日) 資料4(4)-33-3 「『図書館活用法』プログラム評価活動報告(3)」矢野恵子『(図書の譜)17号, 157~167頁』2013年3月発行 資料4(4)-33-4 「大学図書館におけるリテラシー教育効果の評価-明治大学『図書館活用法』授業評価を事例として-」矢野恵子『(図書の譜)18号, 209~220頁』2014年3月発行 資料4(4)-33-5 「教育効果を促進するためのレポート(・論文)ループリック」 渡邊有樹子</p>

第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価 効果が上がっている点 F列の現状から記述 改善を要する点 F列の現状から記述	発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
			「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか						
a ● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学の理念、目的を踏まえて、定めているか。	図書館の理念・目的を達成するために、老朽化した、あるいは不足する図書館施設を更新し、適切な施設・設備を整備する。また、図書及び電子媒体の利用環境を整備し、快適な利用環境を提供する（資料7-33-1:346~351頁）。 図書館の教育研究等環境に関しては、教育・研究に関する年度計画書において掲げている（資料7-33-1）。和泉図書館は、基本コンセプト専門部会報告書に掲げたコンセプトに基づき、2012年5月1日に開館した（資料7-33-2）。2013年4月に開館した中野図書館は、明治大学の第四の図書館として現行図書館と同様の機能を持ち、同様のサービスを提供するが、キャンパスの特性を活かすことも重要視している。マンガ図書館に関しては、「『東京国際マンガ図書館』（仮称）設置大綱」及び「明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書」に必要な施設設備を掲げている（資料7-33-3）（資料7-33-4）。		・中野図書館は蔵書数、座席数等規模が小さく、必要な設備が整っていない。		・7月、1月の試験期の座席不足に対応できるようにするため、中野図書館を他キャンパスと同規模の施設・設備にする。 ・中野キャンパス2期工事を推進し、中野図書館を他キャンパスと同規模の施設・設備にする。	資料7-33-1 2014年度教育・図書館・研究に関する年度計画書 資料7-33-2 和泉キャンパス新図書館建設委員会基本コンセプト専門部会 基本コンセプト専門部会報告書（2008年7月25日） 資料7-33-3 「東京国際マンガ図書館」（仮称）設置大綱（2010年3月11日） 資料7-33-4 明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書（2013年2月28日）
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか						
a ● 方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	①校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成 図書館の利用者座席数は、大学基準協会の図書館基準に示されたことがある学生収容定員の10%が一つの目安となる。中央図書館はかろうじて10.5%で基準を満たしているが、生田図書館は9.3%でこの基準に達していない。一方、和泉図書館は、新図書館が2012年に開館し、2013年4月からは国際日本学部が和泉キャンパスから中野キャンパスへ移転したことから、12.0%と基準を上回る改善が図られた。さらに、閲覧席については、様々な利用者が満足できるように、いくつもの種類の閲覧席を設置した。新図書館としては、中野図書館が2013年4月1日に開館したが、座席数は初年度の学生数の10%は満たしていたものの、現在は7.4%であり、現状のままでは総合数理工学部の1年生から4年生まで4学年が揃う、2016年度ではさらに劣悪になる（資料7-33-6:表48）。 また資料の電子化が今後進むとはいえ、資料の配架スペースも必須設備であるが、書庫の狭小化が進み、生田保存書庫を活用しても今後約4年で書庫は満杯になる見込みである（資料7-33-5）。 2001年に開館した中央図書館は、ネットワーク等情報関連設備は過不足なく設置され、学生用情報設備も充実している。和泉図書館は、2012年5月1日に開館し、館内無線LANの整備、貸出ノートPCロッカーの設置、プレゼンテーション設備の設置、デジタルサイネージを駆使した情報伝達など情報関連設備は十分整った。生田図書館は、パソコンの設置やプレゼンテーション設備及び無線LANの情報関連設備の整備を数年かけて行い、学生用情報機器の充実やネットワークの整備は、一通り改善をみた（資料7-33-5）。中野図書館は、プレゼンテーション設備はあるものの、貸出ノートPCロッカーの設置はないが、中野キャンパス内のセルフアクセスセンターでPCの利用ができる。図書館内のネットワークの整備により、小規模図書館ながら学生の学習環境はほぼ整っている。しかし、中野図書館は、全体的に規模が小さいことから、蔵書数、座席数、グループ閲覧室などの学習スペースなど、全般にわたり不足している。 マンガ図書館は、米沢嘉博記念図書館の開館後に受け入れた寄贈資料の十分な配架スペースがなく、学内に分散して保管している。しかし、開館以降継続して資料の受入れや購入を行なっているため、学内の空きスペースもなくなりつつあることから、学外施設倉庫の賃借を検討せざるを得ない状況となっている。 ②校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保 施設のバリアフリー化は、生田図書館を除いてほぼ実現している。生田図書館は車椅子利用者のための施設整備は行われているが、利用者入口からの出入りはできない。また、視覚障害者のための閲覧室、点字ブロック等の整備も行われていない（資料7-33-5）。 地震時における書籍落下防止策については、和泉図書館及び中野図書館では書架の構造計画時から検討し、これを反映している（資料7-33-7）（資料7-33-8）。	・和泉図書館は、2013年度末に、3F閲覧室の座席を7席増やした。 ・国内のみならず、海外からも和泉図書館の見学依頼があり、開館後2年間で、見学者数は約9,000人を超えた（資料7-33-5）。 ・和泉新図書館が公益財団法人日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」を2013年に受賞した（資料7-33-9）。	・中野キャンパスの二期計画を推進し、中野図書館の規模を拡大する必要がある。 ・生田図書館は、バリアフリー化を完成させる必要がある。 ・マンガ図書館は、寄贈資料の保管場所の確保が必要である。	・全館的に閲覧席を増やすために、不要な機器備品を廃棄するなどして、閲覧席を設置できるスペースを確保する。その際には、防犯・防災等に十分に配慮する。	・生田図書館は、視覚障害者用点字ブロックの設置を行う。 ・生田図書館は、一定の設備環境が整備されたが、建物の老朽化により改修工事には限界があるため、新図書館の建設を要求する。 また、本学図書館の収蔵書数について適切な数を検討し、それに応じた書架増設計画を策定する。 ・マンガ図書館は、「明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書」に基づき、中野キャンパスにおける建設計画を推進する（資料7-33-4）。	資料7-33-4 明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書（2013年2月28日） 資料7-33-5 2013年度図書館年次報告書（2014年9月刊行予定） 資料7-33-6 明治大学データ集 資料7-33-7 明治大学和泉キャンパス新図書館（仮称）基本設計（抜粋）2010年3月3日理事会承認 資料7-33-8 明治大学2階図書メディアセンター自立書架[備品設計図] 資料7-33-9 図書館ホームページニュース「和泉図書館が受賞しました！GOOD DESIGN AWARD 2013」
(3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか						
a ① 図書、学術情報サービスに関する方針の明確化 ② 図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性 ③ 図書館の規模、司書等の資格を有する職員配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境 ④ 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備 ⑤ ラーニングコモン機能を発揮する学習支援機能の充実（※明大オリジナル項目） <図書、学術情報サービスに関する方針の明確化>	<図書、学術情報サービスに関する方針の明確化> 明治大学図書館（中央図書館、和泉図書館、生田図書館、中野図書館）、明治大学マンガ図書館（米沢記念図書館、現代マンガ図書館）、ローライブラリー、博物館図書室、メディアライブラリーにおいて図書・学術情報サービスを提供している（資料7-33-6:表49・表50）。 明治大学図書館の図書・学術情報サービスに関する方針は、「図書館規程」及び「教育・研究に関する年度計画書（図書館）」において明示している。図書館は教育・研究支援の中核機関であり、教育研究及び学習に必要な学術資料を収集・整理・保存及び提供、初年次導入教育の一端を担う図書館リテラシー教育機能を提供することにより、教育研究の進展と広く学術の発展に寄与することを目的としている（資料7-33-1:346~351頁）、（資料7-33-10）。特に、近年必要性が高まっているラーニング・コモンズ機能を、2012年度開館した和泉図書館において実現した。 「明治大学マンガ図書館」は、現在「米沢嘉博記念図書館」及び「現代マンガ図書館」の2館で構成し、将来的に設置される「明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）」の先行施設として位置づけている。「明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）」は、2011年度に作成した「明治大学国際マンガ図書館（仮称）設置準備委員会報告書」に基づき、さらに検討を重ね、「明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書」として設置構想をまとめた（資料7-33-4）。 これらの方針は毎年、図書館に関しては「図書委員会」において、マンガ図書館に関しては「マンガ図書館運営委員会」（資料7-33-11）において、年度計画策定時に確認している。	・図書館に関する多言語ホームページを公開し、国際化を推進した（資料7-33-12）。 ・中野図書館案内を追加した多言語リーフレットを作成し、留学生や海外からの見学者への利用案内サービスが向上した（資料7-33-13~16）。	・多言語ホームページには中野図書館の案内を追加する必要がある。 ・図書館リテラシー教育活動において、特にレポート作成指導については、レポートの章立て、参考文献の書き方、資料利用の指導等を中心とした研修を継続的に行う。	・図書館ホームページ全体が多言語対応ではないので、多言語対応すべきページを選定し、今後多言語対応とし、留学生、外国人教員等が見やすい図書館ホームページとする。	・図書館職員研修（SD研修）を企画実施する。 ・全ての図書館職員が、資料利用の指導など、図なんらかの図書館リテラシー教育活動に取り組めるよう計画的に研修を実施する。	資料7-33-1 2014年度教育・研究に関する年度計画書 資料7-33-4 明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書（2013年2月28日） 資料7-33-6 明治大学データ集 資料7-33-10 明治大学図書館規程 資料7-33-11 明治大学マンガ図書館規程 資料7-33-12 明治大学図書館ホームページ Meiji University Library「Langage」 http://www.lib.meiji.ac.jp/english/language.html 資料7-33-13 明治大学図書館利用案内（英語版） 資料7-33-14 明治大学図書館利用案内（簡体版） 資料7-33-15 明治大学図書館利用案内（繁体版） 資料7-33-16 明治大学図書館利用案内（ハンダ版）

2013年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
<図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性>	<図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性> 各キャンパスの図書館及び博物館図書室を合算した蔵書数は、図書が2,597,183冊、雑誌が41,572タイトルとなっている(資料7-33-6:表50)。館外貸出し数は総数で428,281冊、総入館者数は延べ2,051,992人である(資料7-33-6:表49)。中央図書館は、2001年3月に開館して以来延べ入館者数が1,100万人を迎え、和泉図書館においては、2012年5月の開館後1年1カ月で延べ入館者数100万人を超えた。和泉図書館の利用者が増加した理由は、学生の自主的な学習活動を促すコミュニケーションの場を設置し、学習支援機能を強化した結果である。学外からの見学者も約9,000人を超え、全国から注目を集めている。各館とも、各学部等のシラバスに掲載されている参考図書は館内「シラバス本コーナー」に設置している。 主要施設である図書館の資料購入予算は約7億円であり、「学術専門図書費」「学習用図書費」「逐次刊行物費」「電子資料費」に大枠で分け、図書委員・図書館員による「収書部会」「電子資料分科会」「特別資料選定分科会」「学習用図書選書分科会」等、委員会形式の恒常的な選書体制を整え、体系的な資料の収集に努めている(資料7-33-17~25)。 図書館の電子的資料について、電子ジャーナルでフルテキストを提供できるタイトル数は、35,663タイトルとなった(資料7-33-6:表50)。2008年度から雑誌の電子化を進め、新規購読雑誌の電子オンリー契約、パッケージ契約をし、人文・社会科学系の充実を図ってきた。また、e-book、バックファイル及びデータベースも契約を維持した。またリンクリゾルバは使用感が良く、電子資料の利用環境は確実に向上しているため、契約を継続し、利用環境を維持している。 図書館サービスの満足度の検証と向上のため、各図書館に「投書箱」を設置し、概ね月1回の頻度で回答を掲示し、利用者の声を反映できる体制としている(資料7-33-26)。図書館ホームページ上では、「オンラインナレッジサービス」を公開し、利用者からの調査依頼や要望をオンラインで行えるようにし、レファレンスの実績を蓄積し、利用者への便宜を図っている(資料7-33-27)。さらに2013年度から公式Twitterを公開し、利用者身近に感じられるよう取り組んでいる(資料7-33-5)。	②4つのキャンパスに設置された図書館の利用状況 図書館の蔵書数は約250万冊である。2014年3月に改修工事のため閉室していたローライブラリーを除き、各図書館の年間開館日は平均して330日以上となり、開館時間も通常時8時30分から22時までとし、学修の便宜を図っている(資料7-33-6:表49)。なお、来館者数についても、和泉図書館は開館以来1年1カ月で、延べ入館者数が100万人を突破し、中央図書館は2000年に開館して以来延べ入館者数が1,100万人を超えている。	・電子資料契約金額の図書費全体に占める割合が増え続けているため、契約内容変更を検討する。	②4つのキャンパスに設置された図書館の利用状況 開館日数・時間等については、可能な限りの態勢は取れているので、今後は各キャンパスの学生の需要に沿ったさらなるサービスの提供という観点からラーニング・コモンズの機能及び図書館リテラシー教育機能の強化など、本学の教育・研究支援、社会貢献を強化・推進する。	・電子資料の契約方法の抜本的な改革を行うため、学内研究者の理解を得るよう説明努力をする。	・電子資料の契約方法を見直し、学内研究者が必要とする文献を入手できるようにする。	資料7-33-5 2013年度図書館年次報告書(2014年9月刊行予定) 資料7-33-6 明治大学データ集 資料7-33-17 明治大学図書館収書部会運営内規 資料7-33-18 明治大学図書館電子資料分科会運営内規 資料7-33-19 明治大学図書館特別資料選定分科会運営内規 資料7-33-20 明治大学図書館学習用図書選書分科会運営内規 資料7-33-21 明治大学図書館中央図書館学習用図書選書分科会運営内規 資料7-33-22 明治大学図書館図書館基礎資料選定分科会運営内規 資料7-33-23 明治大学図書館アフリカ文庫選定分科会運営内規 資料7-33-24 明治大学図書館蔵田文庫選定分科会運営内規 資料7-33-25 明治大学図書館江戸文藝文庫選定分科会運営内規 資料7-33-26 図書館ホームページ「意見・要望に関する回答」 http://www.lib.meiji.ac.jp/about/reply/index.html 資料7-33-27 図書館ホームページ「オンラインナレッジサービス」 http://www.lib.meiji.ac.jp/search/knowledge/index.html
<図書館の規模、司書等の資格を有する職員配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境>	各館においてインターネット接続環境を整備し、パソコンを用意している。検索用のデスクトップ型パソコンだけでなく、中央図書館、和泉図書館、生田図書館では貸出用ノートパソコンも用意し、図書館全館では533台のパソコンを保有している(資料7-33-5)。中野図書館は、小規模図書館のため図書館内に貸出用ノートパソコンの設置はないが、中野キャンパス内のセルフアクセスセンターを利用してパソコンを利用できる環境にある。	・情報設備環境が全館で同等のサービスを実施することで図書館としての統一したサービスを提供できている。 ・利用環境を整備されたことにより、長時間滞在型図書館の実現に効果が上がっている。 ・司書資格を有する職員並びに同等のスキルを持つ職員が対応することで、図書館サービスを通じて、教育・研究支援に一定の成果をもたらしている。	・生田図書館の新図書館構想を推進する。 ・中野図書館の規模拡充に向けて2期工事を推進する。 ・国際マンガ図書館の設置計画を推進する。 ・マンガ関係の専任職員を配置する。	・全館で同じサービスを展開することで、利用者にとって利用しやすくなっている。 ・学内施設の中で、図書館が最も長く利用でき、休日開館も実施しているため、学生にとっての学習環境を十分提供できている。	・中野図書館の規模を拡大するため、2期工事を推進する。 ・国際マンガ図書館の設置計画を推進する。	・生田図書館の利用者環境を整えるうえで、建て替えの必要性を認識してもらうため、学内関係部署へ要請する。	資料7-33-5 2013年度図書館年次報告書(2014年9月刊行予定) 資料7-33-6 明治大学データ集 資料7-33-27 図書館ホームページ「オンラインナレッジサービス」 http://www.lib.meiji.ac.jp/search/knowledge/index.html
<国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備>	<国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備> 図書館における他大学との協力については、本学、青山学院大学、学習院大学、國學院大學、東洋大学、法政大学、明治学院大学、立教大学の8大学で「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」を形成し(資料7-47)、相互の学生・教職員が各大学の図書館を利用できる体制を構築し、その中で本学図書館は他大学から最も利用される図書館となっている(資料7-33-5)。また国立情報学研究所情報資料センター(NII資料センター)との大学院学生レベルの相互利用を実施しており、2011年度には駿河台キャンパス近隣の東京医科歯科大学図書館と相互利用協定を締結している(資料7-33-28、資料3-7-29)。 その他、中央図書館では千代田区立図書館と相互協定を締結し、和泉図書館では杉並区図書館ネットワークを形成することにより、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学との相互利用を実現した。2013年11月には、和泉図書館と世田谷区立図書館と図書館利用の覚書を締結し、同年12月より世田谷区民への和泉図書館の開放が始まった。(資料7-33-30)生田図書館では川崎市立の全ての図書館との連携を実現した。	・他大学、関係機関との連携をとることで、学生、教職員が利用できる資料が増えた。 ・ポータルサービスにより、図書館に来館することなく、資料利用サービスの一部を受けることができるようになり、利用者サービスが向上した。	・施設の拡充等が実現し利用環境が整い次第、中野図書館と中野区図書館との連携を実現する。	・コンソーシアムや協定館との新たな利用サービスを検討する。	・協同で講演会の開催など各キャンパス図書館と各地域との連携を行なう。	・施設の拡充等が実現し利用環境が整い次第、中野図書館と中野区立図書館と協定を締結する。	資料7-33-5 2013年度図書館年次報告書(2014年9月刊行予定) 資料7-33-28 明治大学図書館ホームページ「NII資料センター」 http://www.lib.meiji.ac.jp/use/nii/index.html 資料7-33-29 明治大学図書館ホームページ「東京医科歯科大学図書館」 http://www.lib.meiji.ac.jp/use/tmdu_m/index.html 資料7-33-30 図書館ホームページ「世田谷区民の方へ」 http://www.lib.meiji.ac.jp/users/community/setagaya.html
	学術情報のオープンアクセスについては、「機関リポジトリ」のシステムが貢献している。2007年度に図書委員会の下に「学術・教育成果リポジトリ運営部会」を設置し、各学部、教授会の了承を得、本学の紀要、研究報告書等の著作権処理の手続を実施した(資料7-33-31)。登録公開論文数は2013年5月27日には10,000件を超えた。これらはホームページに公開されている(資料7-33-32)。 「蔵田文庫」の古地図など、図書館は貴重書のデジタル化を進めており、通常は閲覧不可の資料も図書館のHPから容易にアクセスして閲覧できる。このようにデジタル化した資料を公開することは、社会貢献の一つといえる。	・本学の研究成果を公開することで、広く学術情報を提供することに貢献するだけでなく、電子資料の高騰化に対するオープンアクセス事業に対しても効果を上げている。 ・通常は閲覧不可の貴重書を電子化して公開することで、閲覧サービスを向上した。	・本学機関リポジトリへの登録対象のほとんどが大学紀要類であり、商業出版物の学術論文の掲載がほとんどない(資料7-33-32)。	・本学機関リポジトリへの登録対象を全て処理できる予算を毎年確保し、迅速な提供に努める。	先生方に商業出版物の学術論文を機関リポジトリへ掲載してもらうよう、図書館として協力依頼の広範を行なう。	・図書館所蔵の貴重書を電子化し、図書館ホームページ等で公開する。	資料7-33-31 明治大学学術・教育成果リポジトリ運営部会運営内規 資料7-33-32 図書館ホームページ「Meiji Repository: 明治大学学術成果リポジトリ」 https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/index.jsp

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<ラーニング・ commonsの機能を発揮する学習支援機能の充実>	<p><ラーニング・commonsの機能を発揮する学習支援機能の充実></p> <p>本学は、図書館を「教育の場」として積極的に位置づけ、図書館の活用を教育課程に取り込んでいる。この取組みは、学部教育における導入教育として位置づけられ、専門教育の学習支援としても有効である。具体的には、全ての学部生が履修可能な学部間共通総合講座「図書館活用法」による体系的な情報リテラシー教育、各学部の授業（演習）の中で実施する「図書館ガイダンス」などによる教育活動の展開である。これは教員、学生からの評価が高く、年々規模を拡大している（資料7-33-33~36）。</p> <p>「図書館活用法」とは、情報・資料検索技術の実践的学習を土台に、集めた情報・知識をレポート・論文の作成に生かす基本的技法を学ぶ科目である（資料7-33-37）。特色としては、教員と図書館員が教職協働して教育にあたっていること、また単位認定されることである。この科目は全4キャンパスで開講され、授業は動画コンテンツ化されており、図書館ホームページで公開されている（資料7-33-38）。授業内容についてはプログラム評価を行い、検証結果は次年度の授業計画に反映されている（参照：基準4（4））。「図書館ゼミツアー」とは、授業1コマを使い、図書館の利用方法、文献の探し方等を学ぶもので、実習形式で行われる。一般的な図書館ガイダンスとは異なり、個々の授業科目を担当する教員の要望に応じて、図書館員が図書館の施設・資料案内、情報検索実習などをコーディネートし、効果的な教育支援を行うところに大きな特徴がある。教員からの要望に応え、開催回数は年々増加し、2013年度中央図書館は約60回、和泉図書館は約180回、生田図書館は約20回、中野図書館は約20回実施した。その他にも「レポートの書き方講座」や「各種データベースの利用講座」は、図書館スタッフ・大学院生を講師として随時開催している（資料7-33-33~36）。</p>	<p>③和泉図書館におけるラーニング・commonsの機能</p> <p>和泉図書館は「入ってみたくなく図書館」をコンセプトとして竣工し、ラーニング・commonsの機能の提供をめざし、学生の自主的な学習活動を促すコミュニケーションの場として「グループ閲覧室」、「共同閲覧室」、「コミュニケーションラウンジ」を設けている。正課授業「図書館活用法」や演習科目の授業の一部において「図書館ゼミガイダンス」を行うことにより、低学年次において図書館をより有効に活用するように配慮している。</p>		<p>③和泉図書館におけるラーニング・commonsの機能</p> <p>これまで「ビブリオバトル」や「ブックハンティング」など、さまざまな図書館企画を実施して学習活動を支援してきたが、今後はこれらの企画のさらなる周知を行い、教員や学部生・大学院生と共同で実施し、参加者の増加につなげる。</p> <p>教員や学生及び大学院生とのコラボ企画を検討し、学生の積極的な参加をさらに促進するよう計画する。</p>		<p>資料7-33-33 2013年度中央図書館ガイダンス、ゼミツアー、講習会報告</p> <p>資料7-33-34 2013年度和泉図書館ガイダンス・講習会等の実施について（報告）</p> <p>資料7-33-35 2013年度生田図書館ガイダンス・講習会等の実施について（報告）</p> <p>資料7-33-36 2013年度中野図書館ガイダンス等の実施について（報告）</p> <p>資料77-33-37 図書館活用法シラバス（学部間共通総合講座シラバスから当該部分を抜粋）</p> <p>資料77-33-38 図書館ホームページ「図書館活用法デジタルコンテンツ」 http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/stream/C06850011.html</p>
	<p>2012年5月に開館した和泉図書館は、グループ学習機能を有する「グループ閲覧室」、「共同閲覧室」、「コミュニケーションラウンジ」を設置した。設計時からグループ学習機能を重視し、ディスカッションやプレゼンテーションができる場所を設け、加えて、「ホール」、「サロン」を設置した（資料7-33-39）。中央図書館の機能をさらに拡充し、和泉図書館では学生同士のグループ学習に加え、様々な図書館企画を実施し、学習活動を支援している。具体的には、「ビブリオバトル」「ブックハンティング」「ブックシェアリング」「大学院生によるレポートの書き方講座」「留学生講演会」「学生による特設図書コーナー企画」「学生による就職活動体験講座」などの学習支援を実施した。中央・和泉・生田図書館にはギャラリーを設け、ゼミ、公認サークルなど学生活動の研究発表、本学教員の研究成果発表、図書館資料の紹介のために利用している（資料7-33-33~36）。中野図書館には図書館ギャラリーは設置されていないが、図書館ゲート近くに特設コーナーを設け、学生の読書推進のための様々な企画展示を行っている。</p>	<p>・「ビブリオバトル」「ブックシェアリング」「大学院生によるレポートの書き方講座」「留学生講演会」などの様々な図書館企画を実施することにより、主体的な学習活動を支援している（資料7-33-5）。これらの取り組みを、新しい図書館になってから率先的に行っており、学生の利用状況は2013年度も高く、引き続き学習支援の機能として効果を上げている（資料7-33-6：表4.9）。</p>		<p>・全館で、「ビブリオバトル」「ブックシェアリング」「大学院生によるレポートの書き方講座」「留学生講演会」などの様々な図書館企画を実施する。</p>		<p>資料7-33-6 明治大学データ集</p> <p>資料7-33-33 2013年度中央図書館ガイダンス、ゼミツアー、講習会報告</p> <p>資料7-33-34 2013年度和泉図書館ガイダンス・講習会等の実施について（報告）</p> <p>資料7-33-35 2013年度生田図書館ガイダンス・講習会等の実施について（報告）</p> <p>資料7-33-36 2013年度中野図書館ガイダンス等の実施について（報告）</p> <p>資料7-33-39 明治大学和泉図書館パンフレット</p>
(6) 教育研究等環境の適切性の検証プロセスを機能させ、改善につなげているか。						
<学術情報サービスの検証システム>	<p><学術情報サービスの検証システム></p> <p>学術情報サービスを担う図書館においては、「図書館自己点検・評価委員会」を設置し、検証主体としている。</p> <p>「図書館自己点検・評価委員会」は図書委員会の下におかれ、図書館副館長を委員長とし、図書委員2名、事務管理職3名を委員とする。毎年学長に提出する「教育・研究に関する年度計画書」の内容に伴う実施・実現状況の検証を行い、翌年度に「自己点検・評価報告書」を作成している。また毎年「図書館年次報告書」を刊行し、前年度の諸活動を総括するとともに、図書館活動の自己点検・評価、企画立案のためにこれを活用している（資料7-33-5）。さらに「公募による資料選定」や「新規購入雑誌の希望受付」、「投書による教職員や学生の意見受付」を行い、利用者へのフィードバックとしてホームページを通じて「選定結果」や「投書への回答」を公表することにより、利用者の声を反映した改善活動につなげており、内部質保証の一端として機能している（資料7-33-26）。</p>		<p>・図書委員会の下に「図書館自己点検・評価委員会」を設置しているが、限られたメンバーで評価活動を行っている。</p>		<p>・「図書館自己点検・評価委員会」の委員構成を見直す。</p> <p>・図書館職員、図書委員との協同で、評価活動を行なう。</p>	<p>資料7-33-5 2013年度図書館年次報告書（2014年9月刊行予定）</p> <p>資料7-33-26 図書館ホームページ「意見・要望に関する回答」 http://www.lib.meiji.ac.jp/about/reply/index.html</p>

第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか							
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	<p>①地域住民への開放 図書館の開放については、2003年3月に「千代田区立図書館と明治大学図書館との相互協力に関する覚書」を締結し、千代田区民に対する中央図書館の開放を実現した。この協定により、千代田区民は、中央図書館の利用が可能になった(資料8-33-1)。 また2004年7月に「杉並区立図書館及び杉並区内大学・短期大学図書館の相互協力に関する協定書」を締結し、いわゆる「杉並区図書館ネットワーク」に参加することにより、杉並区民に対する和泉図書館の開放を実現した。この協定により、杉並区民は、和泉図書館の利用が可能になった(資料8-33-2)。生田図書館は、2006年3月に川崎市多摩区民への生田図書館の開放に関する覚書を川崎市多摩区と交わし、2006年4月から区民への開放を実現した。さらに同協定を発展させ、2010年3月に、全川崎市立図書館と生田図書館との間で相互協力の覚書を締結した(資料8-33-3)。2013年11月には和泉図書館と世田谷区立図書館との間で、図書館の利用に関する覚書を締結した。これにより同年12月から世田谷区民の和泉図書館の利用が可能となった(資料8-33-4)。</p> <p>②展示会・講演会の開催 中央図書館ギャラリー、和泉図書館ギャラリー、生田図書館ギャラリーにおける展示会、杉並区図書館ネットワークにおける各種講習会、講演会企画への和泉図書館の参加など地域へ開放する諸活動を展開している。和泉図書館では、これまでギャラリー施設がなかったが、新図書館開館を機会に設置された。和泉図書館所蔵「日本近代文学文庫」の展示、東日本大震災復興プロジェクト関連展示、UNHCR難民映画祭関連展示、学生サークルの写真展などのほか、中央図書館展示の巡回展示も行った(資料8-33-5)。</p> <p>③司書講習との連携 夏期に開催するリパティアアカデミー主催の司書講習には、図書館職員が講師として出講し、それぞれ業務で蓄積した経験を生かして指導に当たっている。実習授業の際は、図書館の利用、グループ閲覧室の提供等を認め支援している(資料8-33-6)。</p> <p>④本学関係者への図書館開放 図書館は、本学の卒業生、付属高等学校の教職員・生徒、大学の公開講座リパティアアカデミー会員等にも開放している。ライブラリーカードを作成すれば、貸し出しも可能である(資料8-33-7)。</p> <p>⑤マンガ図書館の開放 米沢嘉博記念図書館は、1Fの展示室を無料公開している。2Fの閲覧室利用は会員手続き(有料)により誰でも利用可能としている。現代マンガ図書館は、入館料の支払い、あるいは会員手続き(有料)により利用可能としている。なお、本学学生・教職員は、両マンガ図書館を無料で利用可能である(資料8-33-8)。</p> <p>⑥米沢嘉博記念図書館の企画展示 米沢嘉博記念図書館では、年間3~4回の企画展示を開催している。また展示会に合わせて、関連講演会やトークイベントも開催し、見学者・参加者は全国から来館している(資料8-33-9)(資料8-33-10)。</p>	<p>・中央図書館ギャラリーでは、新収貴重書展をはじめ5回の展示を開催した。和泉図書館ギャラリーでは、日本近代文庫展をはじめ10回の展示を開催した。生田図書館ギャラリーでは、教員等のコラボレーションにより11回の展示を行った(資料8-33-5)。</p> <p>・中央・和泉・生田図書館のギャラリーは、入館ゲートの外に設置されていることもあり、利用者登録をしていない一般の学外者が気軽に訪れることができる。</p> <p>・米沢嘉博記念図書館では、「内記松夫-日本初のマンガ図書館をつくった男-」展を鳥取県内の会場で展示を行うなど、2013年度も引き続き、鳥取県との連携企画を社会連携事務室と協力して行った(資料8-33-8)。</p>	<p>・明治大学図書館4館のうち地域住民への開放を行っていないのは中野図書館のみである。今後は、施設の拡充等が実現し利用環境が整い次第、中野図書館と中野区立図書館と連携を行う。</p>	<p>・地域連携での講演会、ギャラリー展示等の共同イベントを企画し、実施する。</p>	<p>・協同で講演会の開催など各キャンパス図書館と各地域との連携を行なう。</p>	<p>・施設の拡充等が実現し利用環境が整い次第、中野図書館と中野区立図書館との相互利用の協定を締結する。</p>	<p>資料8-33-1 千代田区立図書館と明治大学図書館との相互協力に関する覚書 資料8-33-2 杉並区立図書館及び杉並区内大学・短期大学図書館の相互協力に関する協定書 資料8-33-3 川崎市立図書館と明治大学生田図書館の相互協力に関する覚書 資料8-33-4 世田谷区立図書館と明治大学和泉図書館の相互協力に関する覚書 資料8-33-5 2013年度図書館年次報告書(2014年9月発行予定) 資料8-33-6 図書館司書夏期講習のご案内 明治大学リパティアアカデミー 資料8-33-7 明治大学図書館利用規程 資料8-33-8 明治大学マンガ図書館利用規程 資料8-33-9 米沢嘉博記念図書館年間活動報告2013年度 資料8-33-10 「漫画・アニメ雑誌の宝庫」(日経新聞 朝刊 2013年10月21日)</p>

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。							
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置(名称、メンバー、年間開催回数)						
(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか							
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	各種委員会は、それぞれ内規を整備し、これに基づき運営を行っている(資料9(1)-33-1~16)。その他、業務委託に関わる法令遵守および個人情報の保護に特に注意している。業務委託は、偽装請負等の問題が生じないよう、大学顧問弁護士に契約内容、業務委託内容等の確認を行っている。また、個人情報の保護については、「図書館における個人情報の保護に関する要綱」に基づき、図書委員1名を監査人に任命し、図書館の当該事項を1年に1度監査する制度を設けている。(資料9(1)-33-17) また、マンガ図書館は、明治大学マンガ図書館規程に基づき、マンガ図書館運営委員会を設置し、運営に関する事項を審議する体制となっている(資料9(1)-33-18)。	・図書館関係規程を、統廃合、新規制定にし整備したことともない、学内関係部署との整合性が取れるようになった。		・図書館関係規程を今後も見直すとともに、新規に規程を制定する際も、学内関係部署と調整を行なう。			資料9(1)-33-1 明治大学図書館収書部会運営内規 資料9(1)-33-2 明治大学図書館特別資料選定分科会運営内規 資料9(1)-33-3 明治大学図書館電子資料分科会運営内規 資料9(1)-33-4 明治大学図書館学習用図書選書分科会運営内規 資料9(1)-33-5 明治大学中央図書館学習用図書選書分科会運営内規 資料9(1)-33-6 明治大学図書館図書基礎資料選定分科会運営内規 資料9(1)-33-7 明治大学図書館アプリカ文庫選定分科会運営内規 資料9(1)-33-8 明治大学図書館蔵田文庫選定分科会運営内規 資料9(1)-33-9 明治大学図書館江戸文藝文庫選定分科会運営内規 資料9(1)-33-10 明治大学図書館ケバック文庫選定分科会運営内規 資料9(1)-33-11 明治大学図書館日本近代文学文庫選書分科会運営内規 資料9(1)-33-12 明治大学学術・教育成果リポジトリ運営部会運営内規 資料9(1)-33-13 明治大学図書館広報部会運営内規 資料9(1)-33-14 明治大学図書館紀要編集部会運営内規 資料9(1)-33-15 明治大学図書館書評コンテスト選考部会内規 資料9(1)-33-16 明治大学生田図書館ギャラリー運営部会運営内規
(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか							
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	①事務組織の構成と人員配置の適切性 5つの事務室が図書館運営に携わっている。図書館総務事務室は図書館の庶務・システム及び集中化した整理業務を担当する。中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室、中野図書館は、各図書館の蔵書管理・閲覧サービス・レファレンス業務・雑誌管理等の主に利用者サービス業務を担当する(資料9(1)-33-19)(資料9(1)-33-20)。図書館総務事務室、中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室は、学術・社会連携部に所属し、中野図書館は中野キャンパス事務部中野教育研究支援事務室の所管となっている。図書館業務の多くは業務委託して、閲覧業務の全部、レファレンス業務の一部を業務委託し、整理業務の3分の2程度を業務委託している。 また、マンガ図書館は、現在運営業務を担う事務組織が存在せず、図書館総務事務室がこれを兼務している。 ②事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策 事務組織は、管理運営部門(図書館総務事務室)とサービス部門(中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室)に大別される。図書館総務事務長を議長とし、学術・社会連携部長、各図書館事務長で構成される事務部長・図書館事務長会を適宜開催し、大学の諸方針の伝達、図書館運営に関わる諸問題の検討、企画立案等を行っている(資料9(1)-33-21)。また図書委員会を通じて教学との連携を確立している。図書館スタッフ研修会は、館長、副館長、事務管理職、副参事等から構成し、直面する課題について論議している(資料9(1)-33-22)。 マンガ図書館のうち米沢嘉博記念図書館は、図書館総務事務室の下で専門的能力を持つ特別嘱託職員により業務が行われており、現代マンガ図書館は専門的知識を有する者への業務委託により業務が行われている。 ③業務委託によるサービス体制 業務委託に関わる法令遵守および個人情報の保護に注意している。業務委託に関しては、偽装請負等の問題が生じないよう、大学顧問弁護士に契約内容、業務委託内容等の確認を行っている。また、個人情報の保護については、「図書館における個人情報の保護に関する要綱」に基づき、図書委員1名を監査人に任命し、図書館の当該事項を1年に1度監査する制度を設けている。(資料9(1)-33-18)	・図書委員を通じて教学組織との連携協力体制を確立している。 ・サービス部門と管理部門とに事務室が分かれているため、効率的かつ明確な業務推進体制となっている。 ・業務分担が明確であり、また教学との連携体制も確立している。	・専任の図書館職員の減員が進められ、2007年9月の事務機構改革により、図書館職員の20%削減が実施された。このため開館業務全般と目録業務の一部の委託化を行わざるをえず、図書館職員の育成、キャリア形成に支障をきたしている。 ・専門性を高めるための研修等の場は整備されているものの、従来想定されていた図書館員としてのキャリアパスが適用しにくい状況となっている。特に図書館職員としてのキャリアの第一歩となる目録業務の委託化は、図書館の人材育成にとって大きな課題となっている。 ・大学が把握する図書費資産と図書館の管理台帳にある図書費資産に相違があるため、その原因を追求しているが、今後も継続して原因究明の上、調整を行なう。 ・マンガ図書館は、事務組織が存在しないことから、学内調整などがスムーズに進まないことがある。 ・寄贈で受け入れたマンガ資料の財産登録を完了する必要がある。	・図書委員を通じて教学組織との連携協力体制を今後も維持する。 ・図書館総務事務室、中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室は、学術・社会連携部に所属し、中野図書館は中野キャンパス事務部中野教育研究支援事務室の所管となっている。今後も中野キャンパス事務部中野教育研究支援事務室と連携を取り、明治大学図書館4館を運営していく。	・目録業務については、古典籍、漢籍の外部研修を受け、業務に取り組みる図書館職員を養成する。また貴重書の整理を行える人材も育成する。 ・図書館リテラシー教育については、全図書館職員が、学部間共通総合講座「図書館活用法」の授業の講師、図書館ガイダンス、各種ガイダンス等を実施するスキルを習得する。 ・要員問題については、教学と連携し、大学当局に理解を求め、増員要求を続けていく。 ・財産登録については、大学が把握する図書費資産額と図書館の管理台帳の図書費資産額の相違の原因を継続して追究する。 ・マンガ図書館においても限られた人員・予算で運営しているが、今後人員増・予算増の要求をし、財産登録を迅速に行う。	資料9(1)-33-18 明治大学マンガ図書館規程 資料9(1)-33-19 学術・社会連携部事務分掌内規 資料9(1)-33-20 事務組織規程 資料9(1)-33-21 事務部長・図書館事務長会議事録 2013年度第1~7回 資料9(1)-33-22 図書館スタッフ会記録 2013年度第1~4回	
(4) 事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか							
a (有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことにより、改善につながっているか。	図書館職員の資質の向上を図るため、毎年予算化して各種の専門的な外部研修に派遣している。こうした外部研修に加え、図書館職員の自発的な研修意欲を高めるために、2005年度から図書館自主研修制度を設けている(資料9(1)-33-23)。また図書館紀要「図書の譜」を1997年に創刊し、2013年度に第18号を刊行した。毎号、図書館の知的資産である蔵書を中心としたテーマ設定により、教員と図書館職員が約半数ずつ、合計20本近い論考を掲載し、職員の自己研鑽の場の一つとなっている(資料9(1)-33-24)。						資料9(1)-33-23 図書館研修プロジェクト申請書「城市郎文庫研究会」「明治大学図書館コレクション研究会」「図書館利用環境整備推進プロジェクト(プロジェクト・アイ)」 資料9(1)-33-24 「図書の譜」明治大学図書館紀要18号(2014年3月)

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料															
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述														
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか																					
a	<p>◎自己点検・評価を定期的に行い、公表していること 【約400字】</p> <p>図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置 (名称, メンバー, 年間開催回数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員会等の名称</th> <th>主なメンバー, 人数</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館自己点検・評価委員会</td> <td>委員: 副館長, 図書委員2名, 図書館事務長3名 事務局: 図書館総務事務長, 図書館総務事務室</td> <td>メールによるオンラインミーティングにて点検・評価をおこなっている。</td> </tr> <tr> <td>博物館自己点検・評価委員会</td> <td>館長, 副館長, 博物館事務長, 博物館事務室4名</td> <td>週1回の定例会議の場において適宜点検・評価をおこなっている。</td> </tr> <tr> <td>博物館協議会</td> <td>教員12名, 事務管理職6名</td> <td>2011年3月17日</td> </tr> <tr> <td>博物館友の会</td> <td>一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は6名で構成</td> <td>2010年5月20日, 9月16日, 11月18日, 2011年2月24日 (以上, 友の会理事会との連絡会議)</td> </tr> </tbody> </table> <p>②評価報告書等の作成, 公表 2013年度明治大学自己点検・評価報告書に掲載し公表。</p>	委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日	図書館自己点検・評価委員会	委員: 副館長, 図書委員2名, 図書館事務長3名 事務局: 図書館総務事務長, 図書館総務事務室	メールによるオンラインミーティングにて点検・評価をおこなっている。	博物館自己点検・評価委員会	館長, 副館長, 博物館事務長, 博物館事務室4名	週1回の定例会議の場において適宜点検・評価をおこなっている。	博物館協議会	教員12名, 事務管理職6名	2011年3月17日	博物館友の会	一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は6名で構成	2010年5月20日, 9月16日, 11月18日, 2011年2月24日 (以上, 友の会理事会との連絡会議)					
委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日																			
図書館自己点検・評価委員会	委員: 副館長, 図書委員2名, 図書館事務長3名 事務局: 図書館総務事務長, 図書館総務事務室	メールによるオンラインミーティングにて点検・評価をおこなっている。																			
博物館自己点検・評価委員会	館長, 副館長, 博物館事務長, 博物館事務室4名	週1回の定例会議の場において適宜点検・評価をおこなっている。																			
博物館協議会	教員12名, 事務管理職6名	2011年3月17日																			
博物館友の会	一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は6名で構成	2010年5月20日, 9月16日, 11月18日, 2011年2月24日 (以上, 友の会理事会との連絡会議)																			
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか																					
a	<p>●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字~1000字程度】</p> <p>図書委員会の下におかれた「図書館自己点検・評価委員会」において点検・評価した内容をもとに、翌年度の年度計画立案の参考としている。年度計画は図書委員会承認により実施している。 ●文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項への対応 図書館独自で解決, 対応可能な事項については, 図書館長の総括, 各図書館事務長の指揮監督の下に直ちに改善策を検討している。また, 問題の内容によっては学長, 理事会の決意を求め改善している。図書館運営に関わる重要事項については図書委員会に諮問し, 審議結果に基づき改善を図っている。さらに, 問題点を洗い出し, 本学の長期・中期計画及び単年度計画の事項として取り上げ, 対応・改善方策の方向性を明確にし, 長期にわたり継続して改善にあたっている。</p>	<p>・文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項については, 指摘された課題に対する組織的かつ迅速な対応が可能になっている。</p>	<p>・文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項については, 迅速に対応する。今後は「図書館自己点検・評価委員会」を中心に, 組織的に継続して評価活動を行なう。また, 幅広い視点で評価活動を行なう必要があるため, あらかじめスケジュールを明確にし, 適宜委員構成等を見直す。</p>																		
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか																					
a	<p>●PDCAサイクルを回すための, Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的な内容・工夫 <参考:以下の事項に関して, 関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p> <p>①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 「図書館自己点検・評価委員会」を設置し, 恒常的に自己評価を行なう体制を整えている。毎年学長に提出する「教育・研究年度計画書」の内容に関する実施・実現状況の検証を行い, 翌年度に「自己点検・評価報告書」を作成している。また毎年「図書館年次報告書」を刊行し, 前年度の諸活動を総括するとともに, 図書館活動の自己点検・評価, 企画立案のためにこれを活用している。 ②学外者の意見の反映 「図書館紀要」「年次報告書」等の刊行物を学外諸機関に配布している。その他, 図書館HPを通じて情報を発信している。これらを通して図書館の活動を公開し, 活動成果を社会へ発信している。これに対する反響は, 図書館活動を推進する原動力の一つとなっている。</p>	<p>・「図書館自己点検・評価委員会」は, 図書館の運営に携わる教員, 図書館職員により委員会が構成されているため, それぞれの立場からの全般的な評価が可能である。 ・図書館ホームページに関係規程, 刊行物などの情報を公開し, 積極的に情報開示をしている (資料10-33-1)。</p>	<p>・図書館として, 学外の第三者による検証を受ける仕組みはまだ整備されていない。現在の「図書館自己点検・評価委員会」のような組織内部構成員による評価では, 自己点検・評価の客観性・妥当性を十分に確保できるとは言えない。そのため学外者による検証体制を導入することは図書館単独では困難である。まず, 図書館の運営に直接関わらない学内の第三者による検証の仕組みを検討する委員会を立ち上げる。</p>	<p>・「図書館自己点検・評価委員会」は, 図書館の運営に携わる教員, 図書館職員により委員会が構成されている。今後も組織的に継続して評価活動を行なうとともに, 幅広い視点で評価活動を行なう必要があるため, あらかじめスケジュールを明確にし, 適宜委員構成等を見直す。</p>	<p>・図書館業務, サービスを組織的, 恒常的に改善する機能をもつ図書館自己点検・評価委員会の活動および「図書館年次報告書」の刊行を今後も維持する。また第三者評価の導入の検討をする委員会を立ち上げる。 ・図書館は貸出し情報をはじめ, たくさんの個人情報を保有している。そのため「図書館における個人情報保護に関する要綱」などの規定を遵守し, 個人情報の保護に努める。また, 公募による資料選定結果や新規購入雑誌, 投書への回答など, 利用者へのフィードバックとなる情報はさらに積極的に公開していく。</p>	<p>資料10-33-1 図書館ホームページ「図書館年次報告書」 http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/annual/index.html</p>															